

平成 25 年度萬鉄五郎記念美術館運営委員会会議録

日時：平成 26 年 3 月 25 日(火)14：00～16：00

場所：花巻市東和総合支所第 1 会議室

1 開会

- (1) 14 時 00 分、平野副館長が開会を告げ、現在の出席状況は委員 10 名中 7 名の出席で過半数の出席があり、萬鉄五郎記念美術館運営規則(以下、「規則」という。)第 7 条第 2 項の規定により、委員会が有効に成立する旨告げた。
- (2) 出席委員は、菊池房江委員、紺野浩一委員、菅沼緑委員、杉本吉武委員、平野広委員、宮澤潤子委員、門馬優子委員の 7 名である。
- (3) 欠席通告委員は、斎藤純委員、木村正委員及び山蔭知也委員の 3 名である。
- (4) この会議は公開するものであること。

2 挨拶

(1) 平野広会長

- ・会議招集案内文書に一部誤りがあったこととお詫びする。
- ・萬美術館も開館 30 周年を迎える。建設以前から関わってきた者として大変感慨深い。
- ・30 年をふり返れば右肩上がりばかりではないが、花巻市の唯一の美術館として、また東和地域の一つのアイデンティティとして萬を顕彰しながら、花巻市の発展に寄与できる美術館であってほしい。

(2) 萬鉄五郎記念美術館館長 中村光紀

- ・年度末の忙しい中参集いただき感謝申し上げます。
- ・今年度も各種の企画展を開催したが、計画する際には芸術的に質の高いもの、一般の人にも親しまれるポピュラーなもの、親子でも楽しめる展覧会と、こういう 3 つの柱を念頭において実施してきた。
- ・棟方志功が愛した萬鉄五郎展は、志功のご遺族から、志功が 40 年間愛蔵していた萬の自画像を寄贈いただき、それを中心とした自画像展を開催。
- ・瀧口修造展は、小樽、萬、天童、足利の公立 4 美術館が(財)地域創造から助成を受けて巡回共同企画展として開催。

瀧口は、日本におけるシュルレアリスムの紹介者であり、シュルレアリストとして戦後美術をけん引してきた詩人であり、美術家である。

非常にレベルの高い展覧会であり評価も高く、市内だけではなく県内外からの来館者が多数であった。

一方、レベルが高かったことにより入館者数が伸びない面もあった。ただ、萬美術館が瀧口修造展を開催したことは、美術館としてのステータスを高めたといえる。

- ・次は、委員でもある杉本吉武氏のポスター展を開催。本県のデザイン界では中村誠、福田繁雄の系譜を受け継ぐデザイナーであり、内容の濃い、レベルの高いポスター展であった。
- ・次に市の共同企画展として、萬の自画像展を開催、50 数点の自画像を一堂に展示している。
- ・現在は、館収蔵品による岩手具象表現の系譜展を開催中。
- ・来年度は開館 30 年となることから、全国区の萬ではあるが更に知名度を高める活動を展開して参りたいので、よろしくご審議願いたい。

3 議事（以後の進行は平野会長）

【平野会長】

初めに報告事項を議題とし、報告第 1 号平成 24 年度萬鉄五郎記念美術館運営実績及び平成 25 年度の運営状況について、報告第 2 号寄贈等新収蔵品についての 2 件を一括議題とし、事務局の説明を求めた。

《説明》

- (1) 報告第 1 号のうち、展覧会事業、追加資料で八丁土蔵を活用した展覧会については平澤主任主査が説明。なお、説明に先立って資料の追加と、資料の一部訂正について説明。
- (2) 教育普及事業、入館者の状況、美術館支援事業については伊藤主査が説明。
- (3) 報告第 2 号寄贈等新収蔵品については平澤主任主査が説明。

《質疑応答》

【質問・杉本委員】

美術館の増改築は 28 年度以降ということだが、もう少し具体的に聞きたい。青写真のようなものはあるのか。

【回答・平野】

合併以前に作成した大まかな改修計画があった。それをもとに平成 20 年度頃に内部協議した経緯がある。当時市、部内には多くの類似施設等があり年次計画により実施ということであったが、その後具体的な協議がなされていない。

資料 18 ページに今後の計画を記載しているが、建物自体の増改築等は平成 30 年以降の予定。ゼロから内部協議を進めることとなり、現時点では青写真はない。

【意見・杉本委員】

じっくり検討していい計画を作ってほしい。せっかく良い作品がたくさんあるのに、展示スペースが狭くて公開できないことはもったいない。市民サービスの一つとして早く増改築を進めてほしい。増改築のほか大きな別館ということも一つの方法ではないか。

【意見・紺野委員】

ゆったりと鑑賞したいが、展示室が狭い。展示室を広くするように増築してほしい。

寄贈いただいた自画像は萬の代表作でもあり大変喜ばしいし、志功が所蔵していたことによ

る話題性もある。

瀧口修造展は県内でもベスト3の非常に良い展覧会であった。県立美術館の展覧会に匹敵する。入場者数が伸びなかったということだが、今後も公立美術館の役目を担うものとして、こういう中身の濃い展覧会を企画してほしい。

美術館の所管が教育委員会からまちづくり部、26年度からは生涯学習部となるが、教育委員会から離れたことが影響していないか気にかかる。

【意見・菊池委員】

教育委員会とタイアップして、まなびキャンパスカード（ふるさとパスポート）を活用した団体鑑賞などいい形を作れないか。文化会館では毎年団体鑑賞を実施している。美術鑑賞は親も子も感性を磨く良い機会なので、美術館に足を運んだことのない子どもたちにきっかけを作ってやるのが大事ではないか。

【現状説明・平澤】

まなびキャンパスカード（ふるさとパスポート）は全員に配布されており、また、展覧会のたびに各学校にポスターを配布してお知らせしている。以前は、近いこともあり東和中学校では団体で鑑賞に来たが最近は来なくなった。

時間的に困難になってきているのかもしれない。

【意見・杉本委員】

コマーシャル経費を予算化してPRすればかなりの集客効果があると思う。

【現状説明・平澤】

テレビやラジオでのPRは相当効果があると思うが、予算的に難しい。県立美術館では展覧会ごとに100万円ぐらいのPR経費を使っているようだ。

《諮問》

【審議に先立ち中村館長が諮問書を読み上げ、平野会長に諮問書を手交】

【平野会長】

諮問第1号平成26年度萬鉄五郎記念美術館運営計画を議題とし、事務局の説明を求めた。

《説明》

- (1) 第1 基本方針及び第2 部門別計画のうち1 展覧会事業、第3 管理運営関係については平澤主任主査が説明。

基本方針中、月曜日休館の廃止については取り消し。部門別計画中、1 展覧会事業(1)萬鉄五郎—生命の爆発展—の一般入館料700(650)円を600(550)円に訂正。

追加資料により寄贈が予定されている作品について説明。美術品収集委員会のようなものがないので、この委員会に諮って美術品の収集を進めたい。

平成27年2月23日から3月いっぱい改修工事のため臨時休館。

- (2) 教育普及事業について伊藤主査が説明。

【平野会長】平成 26 年度の運営計画について、各委員から質問、意見を求める。

【意見・紺野委員】

美術館の作品がどんどん増えて、美術館への期待も大きくなる。現在は会議室や閲覧室もない。あらゆるところで美術館増築の声を上げていきたい。

【意見・菊池委員】

収蔵スペースはしっかりする必要がある。平成 30 年の改修を考えるのであれば、今から収蔵庫なども含めしっかりした青写真を描いて提案していく必要がある。具体的な進め方を検討する時期ではないか。

【意見・菅沼委員】

現在備品類は旧土沢小学校においているが、すでに満杯状態。こういう状況も踏まえてしっかりした改修計画を作してほしい。

【意見・杉本委員】

収蔵品は 30 年前には想像もできないくらい増えている。とすれば今の美術館の展示室はすべて萬作品で埋める。その他の作品は別館を立てるなり、2 階をせり出すような建築方法で増築して展示する方法も考えられる。敷地が狭くても工夫次第で方法はあると思う。

八丁土蔵ももう少しアピールすることにより活性化すると思う。

木の間通信は 2 か月に 1 回だが内容がよくレベルも高く毎回楽しみにしている。配布設置する場所をもう少し増やせば集客にもつながるのかなと思う。

【意見・宮澤委員】

杉本委員と同じで、今の美術館は萬だけの展示とし、ほかの作品は新しい建物で展示する方法が良いと思う。その場合でも萬鉄五郎の名にふさわしい設計を心掛ける。

同じ人が何回でも行ってみようという気が起きる魅力ある美術館であってほしい。

【要望・門馬職務代理】

美術館には貴重な書籍とか画集とかの資料もたくさんあるが、なかなか一般の人が見る機会がない。各施設、たとえば図書館には萬鉄五郎祭の写生会の作品を展示することもあるので、図書館で各施設にある資料を展示できないものか。図書館は子どもからお年寄りまで利用する施設であり、また入りやすい場所でもある。

【意見・平野会長】

門馬委員と同じ意見。現在八丁土蔵でやっている松埜さんの賢治童話作品、次はどこでやるかという予定がない。とすれば賢治記念館でやるとか。そのためには学芸員の養成も必要だが、博物館にも学芸員がおり、施設間の連携により対応できることがあるのかなと思う。街かど美術館も大迫の雛祭りも同様に、地域間で連携すればもっともっと盛り上がるのかなと思う。

【意見に対する所管・平野】

美術館としての意義、美術品や施設の維持管理などの面からも現状ではだめだとの意見が大方である。菊池委員の指摘の通り、平成 30 年に改修に着手するとすれば、今から内部検討を進める必要があると感じる。昨年にも増して増改築、改修を求める意見が出されたことを根拠として、必ず内部検討に着手する。

【意見に対する対応・平澤】

先ほど門馬委員から意見のあった資料を他の施設で展示、供覧するということについては、東和図書館と共同で 26 年度から事業を行うこととしている。

【意見・菊池委員】

子どもたちへのアプローチについて、学校にポスターが貼ってあるだけと、子ども一人一人がチラシを持ち帰るのではイメージが違うと思う。子どもたち全員にチラシを配布するののも一つの方法ではないか。こうしたことも美術館の改修につながってくるのではないか。

【意見・菅沼委員】

施設もさることながら学芸員も事務方も少ない。傍から見ていると大変だろうと思う。

【意見・菊池委員】

職員の補充、確保の必要性について普段から発言していく、答申の中にも盛り込んでほしい。

《意見集約・平野会長》

各委員から様々な意見が出されたが、諮問第 1 号の内容については原案を可として答申することに異議がないか諮り、満場で原案通り答申すること、答申書は整理の上、後日館長宛てに提出することと決定した。

なお、附帯意見は、次の 5 点とすることを確認した。

- (1) 美術館の増改築等早期改修について
- (2) 児童・生徒へのアプローチの工夫について
- (3) 美術館職員の増員確保について
- (4) 広報、PR の工夫について
- (5) 他の施設との連携による資料等の公開展示について

4 その他

平野会長がその他について事務局に説明を求め、平野副館長から会議録は市が定める指針により公表するものであることを説明。

平野会長が各委員からその他の意見や要望等を求めたがなく、以上で議長職を退任する旨告げた。

5 閉会

16 時 00 分、平野副館長が閉会を告げた。